

# 発達障害当事者の声

～当事者から見て大学・雇用の環境は  
どうあるべきか？～



## (1) 講義資料・情報

- ・講義資料や教室変更、課題などは大学のWEBサイト等で確認できるようにしてほしい
- ・なるべくすべての授業で録音や録画、スライドの撮影、PCの持込を許可してほしい
- ・口頭のみでの説明が多いので、ノートテイクや口頭の内容をまとめた資料がほしい

## (2) 感覚過敏・1人でリラックスできる空間

- ・他の音が気になるので、マイクの音質や私語など授業中の音に気をつけてほしい
- ・クールダウンでき、静かに気軽に1人で落ち着ける空間や休憩部屋を用意してほしい

## (3) 履修登録・卒業要件の確認

- ・休憩含め、効率よく履修計画を立てられないので、履修計画の確認を手伝ってほしい
- ・友達がいないくて履修漏れが多いので、必修の未取得などがあったら教えてほしい

## (4) 教職員の発達障害の理解

- ・障害の名前だけで、無能だとか、能力や進路を決めつけたりしないでほしい
- ・配慮依頼しても面倒そうにしたり、対応する気のない教職員への理解を深めてほしい
- ・診断がなくても、必要な時には配慮が受けられるようにしてほしい

## (5) 欠席時の対応

- ・出席日数を過度に重視しないで、純粹に学びの成果を評価してほしい
- ・欠席してしまった時の授業を動画で復習できるようにしてほしい

## (6) グループワーク・シラバス

- ・学問の理解の深さとは関係のない、グループワークは基本的にやめてほしい
- ・グループワークするか、単独で課題をするか選べるようにしてほしい
- ・もしグループワークをやる時にはシラバスに必ず書くことを徹底してほしい

## (7) 相談へのアクセス

- ・相談内容別にどんなことを誰に相談したらよいか分かりやすくしてほしい
- ・発達障害の診断がなくても、相談しやすい環境を用意してほしい

など



## (1) 感情的ではない適切な指導

- ・ミスが増えてしまうので、むやみに仕事を急かさないでほしい
- ・誰でもミスはするので、仕事に大きな支障のない範囲では寛容になってほしい
- ・部下の失敗を怒鳴ったり、怒ったりしない上司のもとで働けるようにしてほしい

## (2) 苦手をカバーし、得意を活かした働き方

- ・苦手な部分は助けてもらいながら、職種別採用など得意を活かして働きたい
- ・企業の将来のために、誰にとっても分かりやすいマニュアルを用意してほしい
- ・枠にとらわれずに、どのような仕事や成果を出しているかを見てほしい

## (3) 発達障害の正しい理解と相談しやすい雰囲気

- ・管理職などが発達障害の正しい知識をもって、相談しやすい雰囲気があってほしい
- ・発達障害も十人十色だということをわかってほしい

## (4) 分かりやすい指示伝達

- ・ちゃんと情報が処理できるように、同時に複数人が話さないでほしい
- ・やるべきこと／業務の優先順位がわかるように指示してほしい
- ・口頭だけでなく、メールやチャットを活用して残る形で指示伝達してほしい

## (5) 働きやすい空間・部署

- ・学校の保健室のように、横になってリラックスできるスペースや休憩室がほしい
- ・ストレスを感じにくい静かで少人数の、異動の少ない職場で働けるようにしてほしい

## (6) 柔軟な勤務時間

- ・精神科の通院もあるので、短時間の勤務や時間単位休暇が取れるようにしてほしい
- ・出退勤時間をフレックスにするなど、働き方を選べるようにしてほしい など